

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 城南 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

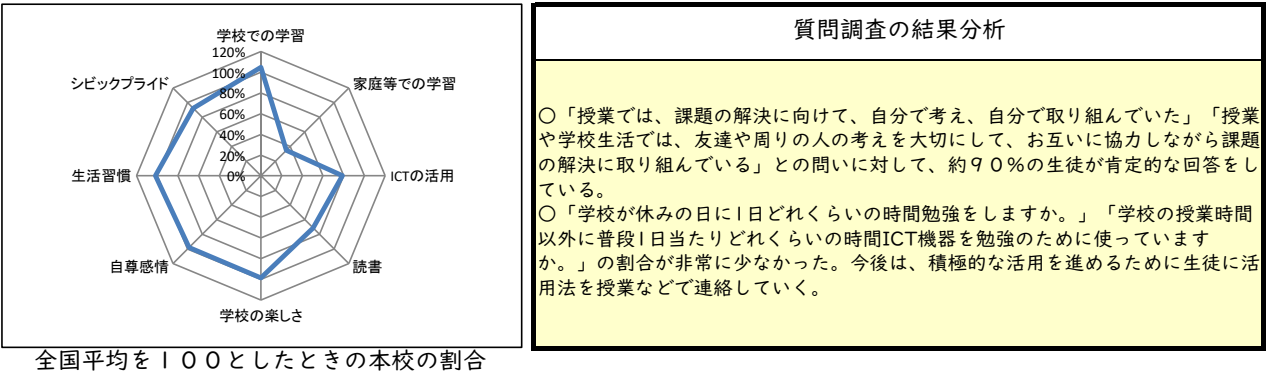
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○読むことについての正答率が高いが、言葉の特徴や使い方に関する事項については苦手としている生徒が多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	選択式・短答式の問題を得意としており、目的を説明した適切なものを選択する問題の正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	記述式の問題に課題があり、資料等を用いて自分の考えを伝えることに課題が見られた。	
数学	全体的な傾向や特徴など	○データの活用についての正答率が高いが、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明することに課題があった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	データの活用し、数学的な表現を用いて説明する問題での正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	図形の問題において、証明を評価・改善することに課題が見られた。	
理科	全体的な傾向や特徴など	○選択式の「粒子」を柱とする領域においての正答率が高いが、記述式の「地球」を柱とする領域に課題が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「粒子」を柱とする領域において、実験器具の操作等に関する技術が身についている。	下回っている
	努力が必要な問題	「エネルギー」を柱とする領域において、考察の内容をより確かなものにするための説明に課題が見られた。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○今年度は、ICTを積極的に活用して個別最適な学びに力を入れた。また、年2回の校内公開授業（職員研修）を行い、ICTの活用と個別最適な学びについて全職員で認識を深めた。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭生活習慣においては、決まった時間に起床・就寝に関しては80%以上の生徒ができている。しかし、家庭における学習時間等が1時間以上学習している生徒は、20%を切っている。今後は家庭学習の勧めなどを学級通信等を通して保護者に協力をお願いする。